令和６年度　京都府立大学地域貢献型特別研究（府大 ACTR）成果概要報告書

分類番号	6	取組名称	文化庁連携による地域歴史文化の次世代継承と地域振興 ―綾部市君尾山光明寺の文化遺産をモデルとして―

研究代表者所属・職名：文学部・教授　　氏名：横内 裕人

研究担当者：

京都府立大学（岸泰子）

外部分担者・協力者（井上一稔、井上大樹、大関美沙、稲穂将士）

主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）

文化庁、綾部市資料館、綾部市教育委員会、奥上林地区自治連合会、君尾山を守る会、奥上林地域振興協議会

【研究活動の要約】

京都府立大学歴史学科の学生が中心になり、君尾山光明寺の文化財調査を行いました。府大学生と上林中学校の中学生が「ふるさと学習」で地元の方がたに「光明寺とわたし」のテーマで聞き取りを行いました（10/22）。大学としても聞きとり調査を行い、子供時代に昭和 26・27 年の国宝二王門修理に携わった思い出や、大被害をもたらした大雪についての記憶など貴重なオーラルヒストリーをアーカイブすることができました（12／21）。文化庁文化財調査官を招き、関係者一同で光明寺境内の文化財の状況を確認しました。参加者は地域の人々が集う場所として光明寺を維持する意義や多くの人に光明寺を知ってもらう手立てについて意見がだされました（3/26）。11/17 には、本堂・大師堂の位牌・芳名標の調査を行い、堂舎の調査を完了しました。調査成果は、奥上林住民向けに光明寺での懇話会（11/16）、公民館での講演会（2/16）を行いました。また 3 冊目となる報告書と一般向けの小冊子（光明寺の仏像）を刊行しました。

【研究活動の成果】

光明寺は聖徳太子建立の由緒をもつ山寺で、古くから地域の支えによって維持されてきました。これまで 6 年に亘って調査してきた文化財成果により、江戸時代までの光明寺と地域との関係がわかってきました。今回の調査により、明治期以降に本堂や二王門が修理された歴史について、古文書の文献史料と本堂の位牌・芳名標とを連関させ、より詳細な修理の情報を得ることができました。また調査の過程で、天保年間の本堂修理の棟札も発見され、重要な歴史情報を公開しました。今年度は、上林中学校生徒とともに地元の方の記憶を文字化して記録することができました。地元中学生への伝承にも貢献できたと考えます。文化庁の現役調査官による視察と地元住民・観光協会・教育委員会・大学の関係者が話し合いを持つことができ、当事者として文化財を学ぶ手立てを検討しました。参加した本学学生にとっても、現場で体験したことで、高い教育効果が得られました。

【研究成果の還元】

10/22 綾部市立上林中学校出前授業。地元住民 5 名、中学生 8 名、府大教員 2 名、府大学生 3 名
11/16 光明寺にて「君尾山光明寺歴史懇話会」を開催。地元住民 34 名、府大教員 3 名、府大学生 5 名、11／17 本堂・大師堂の位牌・芳名標調査。12/21 地元住民聞きとり調査。地元住民 6 名、府大教員 2 名、府大学生 3 名.2/16 奥上林公民館大会、奥上林公民館、約 40 名.。3/26　光明寺文化財懇話会。文化庁 1 名、地元関係者 15 名、府大教員 2 名・学生 2 名・綾部市教育委員会 3 名。

【お問い合わせ先】　文学部（研究科）　横内研究室　職（教授）・氏名　横内 裕人
Tel:　075-703-5256　　E-mail: yokouchi@kpu.ac.jp

参考（イメージ図、活動写真等）

・綾部市立上林中学校出前授業。（10/22、上林中学校生徒・府大学生による聞きとり調査）

・文化庁調査官による講話（3/26）